

グローバル  
四半期動向レポート



2024年度第1四半期

作成: FCMコンサルティンググローバルチーム

- Felicity Burke
- Ashley Gutermuth
- Juan Antonio Iglesias



# 本レポートの概要

FCMコンサルティングによる本四半期レポートは、2024年1～3月（第1四半期）における出張について、FCM TravelおよびFlight Centre Travel Groupでの企業予約から得たグローバルデータ、および2024年4月16日時点のシリウム社（Cirium）による航空スケジュールのデータを利用しています。航空運賃の変動に関しては、いずれの税も考慮していません。

ホテルの平均客室料金（ARR）は、FCM TravelとFlight Centre Travel Groupでの企業予約のデータを利用した平均予約料金です。予約料金の推移は、季節性、需要と供給、予約のリードタイム、為替レート変動を反映しています。

特に明記されている場合を除きすべての運賃および料金は米ドルを基準としています。

# 企業が 留意すべき点

2024年第1四半期、出張はゆるやかながら着実に増え、この状況は2024年第2四半期も続くと想定されます。

- 今年の残り期間の経済的見通しはいささか良好のため、企業は安心して予算を増やし、堅実な出張傾向を実現可能になりつつあります。今年中は需要の高まりから、ほとんどの地域で依然として料金は高いままでしょう。
- 義務となるスコープ3の排出量の報告を準備するにあたり、出張プログラムが注目を集めています。

FCMコンサルティングの2024年第1四半期動向レポートである本号では、業界全体でいっそう本格化している変化について共有します。



## 陸上交通

陸上交通費は上下するため、料金を確認しておきましょう。

## 航空会社の運賃と流通

NDCコンテンツが成長すると共に、サブスクリプションモデルをアップグレードする航空会社も生じています。



## 世界経済

概して、2024年の見通しは良好であるものの、国家間の衝突によって不確実性があります。

## 世界での傾向

2023年上期および2024年第1四半期から安定化した旅行者の傾向は、長期出張が増える兆候です。



## 格安航空会社

2024年の提供座席数の31%を占め、収益の50%を付帯サービスから生み出しています。

## 持続可能な航空燃料

EUの目標によって、2050年に向けて供給が促進されるでしょう。



# 出張

## 2024年第1四半期の主なポイント

1



### 経済レビュー

世界のインフレ率は2024年には5.9%^になる見込みです。失業率は低下傾向で、消費者信頼感は回復しつつあります。概して世界経済は金利上昇に対して弾力的です。こうした兆候から、2024年の経済状況は良くなると見込まれます。いくつかの国家間の衝突により、世界経済には一定レベルの不確実性が引き続きもたらされるでしょう。2024年は段階的な需要の成長に伴い、旅費は上昇傾向にあります。

2



### 世界での予約傾向

2024年第1四半期は予約数が落ち着き、出張需要が安定しています。出張者は今年の残り期間も早期予約やさらなる事前予約で予算を厳しく管理しつづけます。

国内での予約傾向	2024年第1四半期	2023年第1四半期からの変動
オンライン予約の採用	72%	変動なし
事前予約日	23.3日前	↑ 1.5
平均出張日数	4.4日	↑ 0.3

3



### 航空会社のサブスクリプション

アラスカ航空とエアアジアでは、最近サブスクリプションプランをアップグレードし、新たな目的地やメリットを提供開始しました。旅行者は月間または年間の利用で、選択路線でのフライト運賃に利用できます。

- アラスカ航空: 月額49ドルで、米国15か所の目的地へのフライトに利用可能。
- エアアジア: スーパープラスライト (年額187ドル)、スーパープラスプレミアム (年額520ドル) で、10~16の地域へのフライトに利用可能。

業界のトレンドと呼ぶには早いものの、業界全体で検討されている価格設定モデルです。

^国際通貨基金「世界経済見通し (2024年4月16日)」

# G20の世界経済

PMI<sup>^</sup>とインフレ率を比較すると、2024年第1四半期レポートにおける変動はわずかで、旅費は引き続き高額であるとわかります。

2024年第1四半期の平均購入料金を2019年の同時期と比較すると、世界のエコノミークラス運賃は**↑45ドル**、ホテルの宿泊料金は**↑18ドル**上昇しました。ジェット燃料費の傾向は**110米ドル**と安定した一方、最近の国際間衝突が価格を押し上げる可能性があります。

## 所見

- 失業率低下は状況が改善し、支出に対する消費者の信頼感が再び回復していることを示しています。
- 表の指標（PMI移動順）によると、ユーロ圏は引き続き低く、特にドイツやフランスといった主要マーケットにおいて製造業とサービス業の指標に減少が見られます。
- G20の他の国では、以前の分析から微増したインフレ率を除いては好調であるとわかります。

FCMコンサルティングでは、出張予算における今後の経済を把握するため、次の主な指標のサンプリングを共有します: **PMI**、**失業率**、**インフレ率**。その他に出張費に影響を及ぼす要因として、地政学的な不確実性、天候による影響、自然災害、季節性、政府の選挙、祝休日期間、オリンピックなどの大規模イベントなどがあり、また、ここに言及されているものに限られません。

<sup>^</sup>PMI - 購買担当者景気指数

PMI、失業率、インフレ率に関する詳細については、レポート末尾をご覧ください。

国/地域 (G20)	PMI <sup>^</sup> 総合		失業率		インフレ率	
	直近 (2024年2月/3月)	対前月比	直近 (2023年12月~2024年3月)	過去比	直近 (2024年2月/3月)	対前月比
サウジアラビア*	57.0	0.00	4.40	-0.70	1.80	0.20
インド	61.8	0.02	7.64	-0.37	5.09	-0.01
ロシア	52.7	0.01	2.80	-0.10	7.70	0.30
インドネシア*	54.2	0.03	5.32	-0.13	3.05	0.30
メキシコ*	52.2	0.00	2.50	-0.40	4.42	0.02
中国	52.7	0.00	5.30	0.10	0.70	1.50
シンガポール	55.7	-0.02	2.00	0.00	3.40	0.50
韓国*	49.8	-0.02	2.60	-0.40	3.10	0.00
ブラジル	55.1	0.00	7.80	0.20	4.50	-0.01
南アフリカ	48.4	-0.05	32.10	0.20	5.60	0.30
アメリカ	52.1	-0.01	3.80	-0.10	3.20	0.10
日本	51.7	0.02	2.60	0.20	2.80	0.60
オーストラリア	53.3	0.02	3.70	-0.40	4.10	-1.30
トルコ*	50.0	0.00	9.10	0.20	68.50	1.43
スペイン	55.3	0.03	11.76	-0.08	3.20	0.40
イギリス	52.8	0.00	3.90	0.10	3.40	-0.60
カナダ	47.0	0.00	6.10	0.30	2.80	-0.10
オランダ*	49.7	0.01	3.70	0.10	3.10	0.30
イタリア	53.5	0.05	7.50	0.20	1.26	0.51
ユーロ圏	50.3	0.02	6.50	0.00	2.40	-0.20
ドイツ	47.7	0.03	5.90	0.00	2.20	-0.30
フランス	48.3	0.00	7.50	0.00	2.30	-0.70
スイス*	45.2	0.03	2.40	0.00	1.00	-0.20

\* 製造業PMIのみ

# サステナブルな出張の今後の目標

出張プログラムのスコープ3の排出量の報告はもはや任意ではなく、EUでは大企業で義務化されます。

また、航空業界は2050年までにカーボン排出をゼロにする目標に向けて移行しています。EUと英国では供給量の増加、需要の推進、よりサステナブルな出張の未来を実現するため、SAF混合燃料の目標が合意されています。

^CSRD - 企業サステナビリティ報告指令  
\*ESRS - 欧州サステナビリティ報告基準  
^^ダブルマテリアリティ基準 - EFRAG (欧州財務報告諮問グループ) が述べる通り

1



## 企業サステナビリティ報告指令

CSRD<sup>^</sup>が2024年初めから適用開始され、ヨーロッパではスコープ3の排出量の報告はもはや任意ではありません。遅れているものの、企業に対するESRS<sup>\*</sup>の包括的な報告基準も今後適用される予定です。

CSRDには出張にとどまらない広範な要件がありますが、出張プログラムの監督者にとって最も注目すべき事実は、義務である報告とダブルマテリアリティ基準<sup>^^</sup>です。また、国際的な報告義務も2026年から適用となる予定です。

世界5位の経済規模を持つカリフォルニア州でも、類似の法案 (SB253) が可決されています。この法案では2026年から、売上10億ドル超の企業に対して、スコープ1、2、3を含む排出量を報告する義務が規定されています。

2



## 持続可能な航空燃料 (SAF)

2023年、EUと英国はいずれもSAFの使用について、混合燃料の目標に合意しました。この目標では航空会社が商用航空に含めるべきSAF使用量の基準を規定しています。

年	EUの最低導入率	英国の最低導入率
2025	2%	2%
2030	6%	10%
2035	20%	10%
2040	34%	22%
2045	42%	22%
2050	70%	22%

2026年からシンガポール・チャンギ国際空港では、SAFの使用拡大に寄与すべく、出発便の航空券に1%のSAF税を課す予定です。

サステナブルな出張戦略と報告に関するさらなるインサイトまたはサポートを得たい場合はお問い合わせください  
Glenn Thorsen (FCMコンサルティング) : glenn.thorsen@fcmtravel.dk

# 航空

## 2024年第1四半期の主なポイント

1



### 大幅な運賃変動

2024年1月に支払われた航空券の平均旅金は、2019年の同時期と比較すると、エコノミークラスで↑45ドル (+11%)、ビジネスクラスで↑224ドル (+12%) の上昇となりました。

2024年初来と2019年年初来の比較	エコノミー	ビジネス
アジア太平洋	+ 11%	+ 13%
ヨーロッパ	+ 12%	+ 2%
中南米	+ 9%	- 14%
中東・アフリカ	+ 14%	+ 17%
北米	+ 15%	+ 9%

^ スカンジナビア航空のGDS運賃に含まれるサーチャージ4.50ユーロは、5.50ユーロに変更されています。コパ航空の区間単位の料金は18米ドルから24米ドルです。アビアンカ航空は中南米で初のNDCを導入する航空会社で、区間単位の料金は8米ドルから導入し、今後増える見込みです。

2



### NDCに関する最新情報

以下は最近、重要発表をした航空会社です。

- ・アビアンカ航空、コパ航空、スカンジナビア航空は、EDIFACT GDSサーチャージを値上げ、LOTポーランド航空では新たなサーチャージを導入。
- ・スカンジナビア航空、コンテンツ廃止を発表。
- ・エア・カナダ航空、20%のNDC売上シェアを達成。
- ・ルフトハンザドイツ航空、各地で無段階運賃を提供。
- ・マレーシア航空、カンタス航空、スリランカ航空はエージェントのNDCポータルをローンチ。
- ・アメリカン航空は2024年第2四半期に、プリファード・エージェンシーコンセプトの導入を予定。これにより、2024年6月に30%、2024年10月に50%、2025年4月に70%のコンテンツ採用を義務づけ。

NDCに関するさらなるインサイトを得たい場合は、**Florian Mueller (FCMコンサルティング)** までお問い合わせください  
[florian.mueller@us.fcm.travel](mailto:florian.mueller@us.fcm.travel)

3



### 再購入

搭乗券が発行されている予約済みのフライトがあるときに、より安い運賃があったら再購入したほうがよいでしょうか。以下は、航空会社によって再購入が許可されている場合に検討すべき点です。

- ・ 変更手数料全てと、より安い運賃の比較
- ・ 元の運賃の払い戻し可否
- ・ 今後の使用にあたる残存価額の信用
- ・ 元の運賃での座席アップグレード、座席の事前割り当て、その他の付帯サービス・製品などが使用できなくなる可能性
- ・ 移動時間など旅程の変更

# 航空

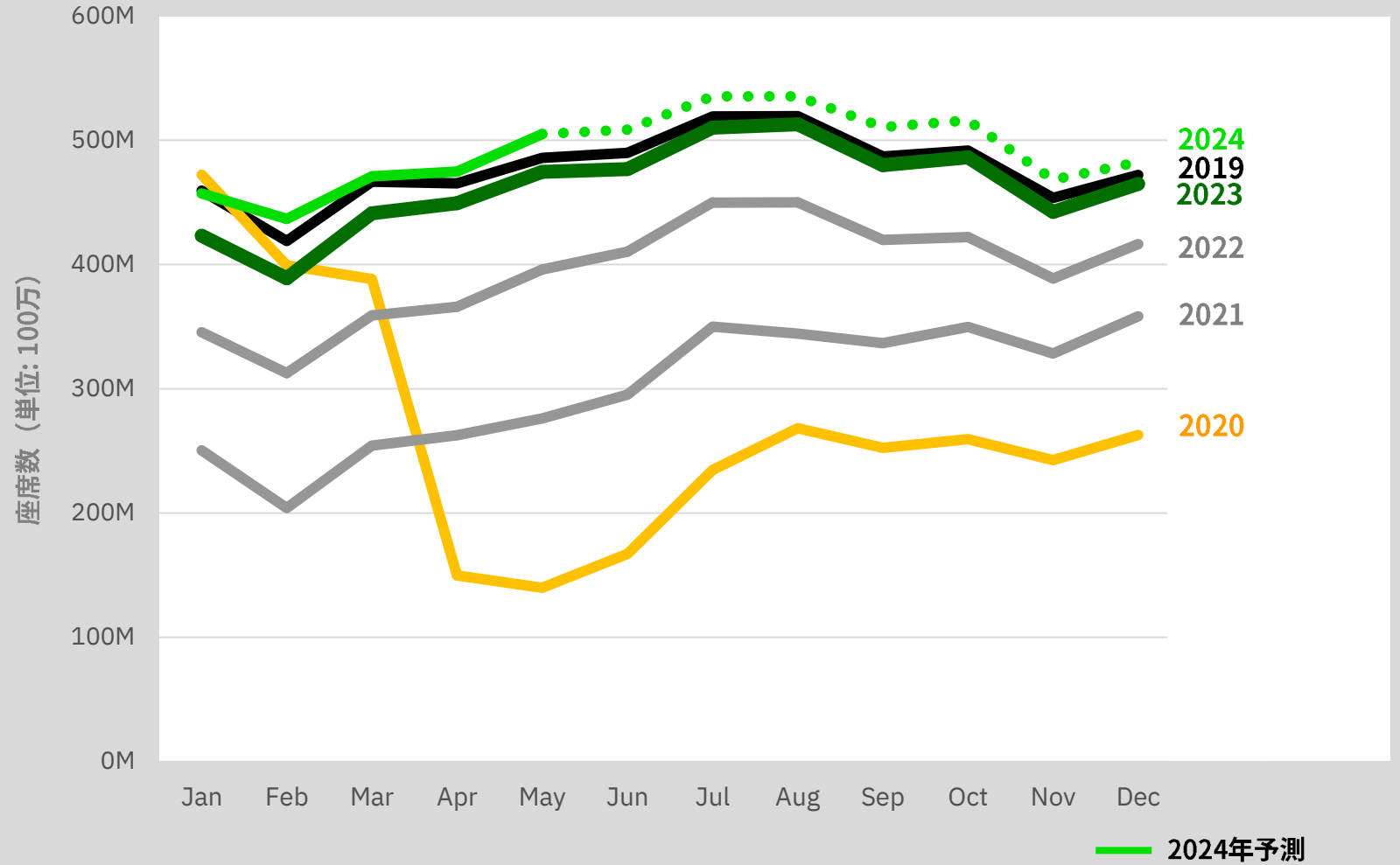
2024年の残り期間、月間の提供座席数は増加見込み

2024年5~12月の月間提供座席数は、2019年の月間平均から平均+3.6% (+1,780万) となると予測されます。

以下の報告の通り、2024年の計画では世界7か所の地域のうち5か所で供給信頼の兆しが引き続き見られます。

2024 vs 2019	座席	フライト
北米	↑ 9%	↓ 7%
アフリカ	↑ 9%	↑ 4%
中東	↑ 6%	↑ 3%
中南米	↑ 5%	↓ 2%
アジア	↑ 2%	= 0%
ヨーロッパ	= 0%	↓ 6%
オーストラレーシア	↓ 1%	↓ 4%

## 世界の座席数





# 世界の航空会社

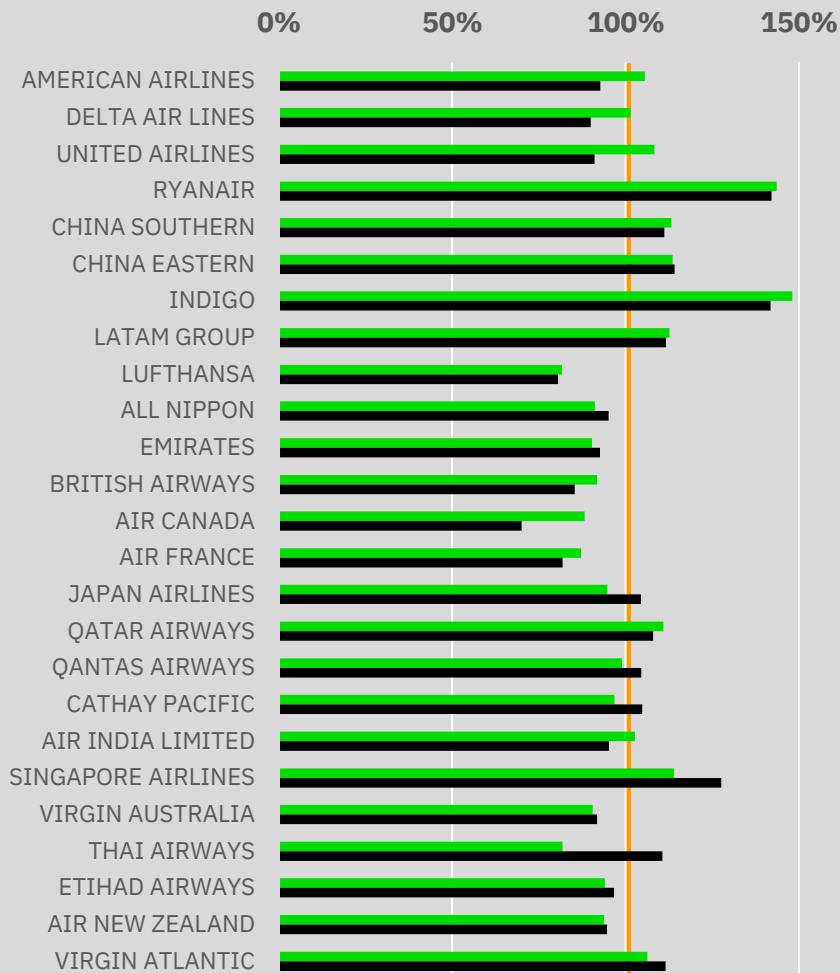
2019年と比較した、2024年に提供される座席数とフライト数

世界上位の航空会社での2024年の提供座席数の予測は、2019年から+6%、フライト数は-1%です。世界上位の航空会社を見ると、LCCの好調がわかります。

上位航空会社のうち9社は、2024年のうちは2019年水準まで回復しない見込みです。

## 世界上位の航空会社

世界上位の航空会社（座席単位）：下図では、2024年に提供される座席数とフライト数を、2019年と比較した割合を示しています。

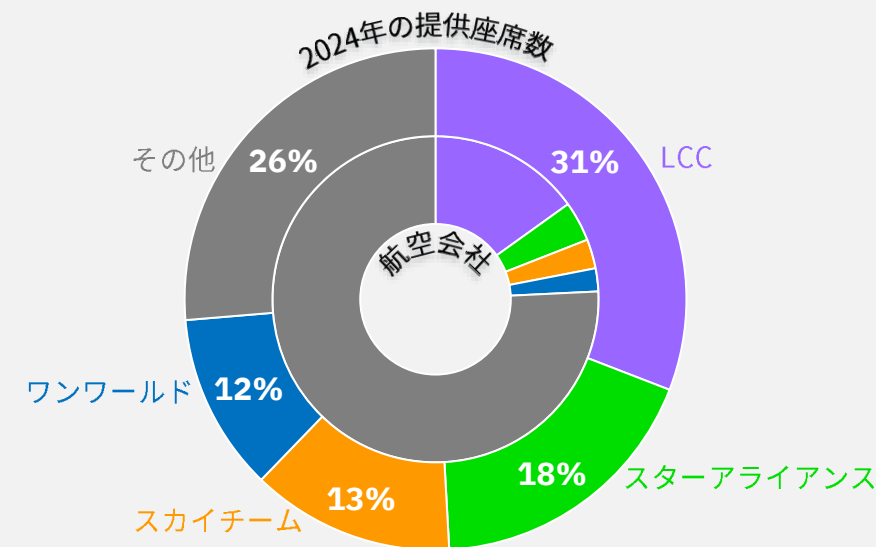


✈️ 座席 (緑色)  
✈️ フライト (黒色)

## 格安航空会社 (LCC)

**象徴的な数:** 2024年に提供される世界での座席数の31%を超える  
**提供内容:** 低運賃、シングルキャビン仕様、ポイントプログラムなし  
**フライト:** 直行便、短距離の移動向け  
**運用:** 需要の変化に合わせてフライトを変更したり、さらなる需要を喚起すべくより安価な運賃を提供したりすることが可能な**無駄のない機敏なビジネスモデル**  
**旅行者のタイプ:** 大半はオプションを抑えて短距離の移動を行いたいレジャー目的の旅行者  
**収益:** 付帯サービス（座席、食事、荷物、エンターテインメントなど）から最大50%の売上を生み出すことが可能

航空運賃に追加する形で付帯サービスを購入するので、LCCではない搭乗券と同等あるいはそれ以上に全体の旅費を抑えられます。旅行者は旅費の全体像を計算してから運賃を比較する必要があります。



# エコノミークラス運賃の高騰

380の都市ペアで、エコノミー航空券は**↑45ドル (+11%)** 高騰、ビジネス航空券はいくつかの路線で下落。

Purchased airfare % change YTD January 2024 vs 2019 same period

## 北米

	エコノミー	ビジネス
BOS-PVG	↑ 21%	↓ 3%
EWR-ORD	↓ 14%	↓ 5%
FRA-JFK	↑ 15%	↓ 10%
JFK-LAX	↑ 31%	↓ 8%
JFK-YYC	↑ 11%	↓ 3%

## ヨーロッパ

	エコノミー	ビジネス
DUB-LHR	↑ 51%	↑ 66%
FRA-MAD	↑ 24%	↓ 11%
JFK-LHR	↑ 14%	↓ 9%
LHR-MAD	↑ 23%	↓ 6%
LHR-PVG	↑ 12%	↑ 2%

## アジア

	エコノミー	ビジネス
SHA-SIN	↑ 1%	↓ 38%
BOM-DEL	↑ 1%	↑ 7%
BOM-LHR	↑ 22%	↑ 16%
PVG-SIN	↑ 2%	↑ 2%
LAX-PEK	↑ 14%	↑ 17%

## 中南米

	エコノミー	ビジネス
CGH-JFK	↑ 15%	NA
CGH-LHR	↑ 8%	NA
EWR-SDU	↓ 3%	NA
FRA-SDU	↑ 9%	NA
SDU-YYZ	↑ 12%	NA

## 中東

	エコノミー	ビジネス
CPT-DXB	↑ 5%	↑ 35%
DXB-FRA	↑ 17%	↑ 15%
DXB-SYD	↑ 13%	↑ 31%
FRA-JNB	↑ 17%	↑ 14%
JNB-LHR	↑ 13%	↑ 7%

## オーストラリア/ニュージーランド

	エコノミー	ビジネス
AKL-JFK	↑ 17%	↑ 27%
AKL-SYD	↑ 20%	↓ 61%
MEL-SYD	↑ 3%	↑ 25%
SIN-SYD	↑ 5%	↓ 3%
LAX-SYD	↑ 1%	↑ 26%

# 宿泊施設

## 2024年第1四半期の主なポイント

1



### 交渉料金とBAR料金の比較

企業がホテルと法人契約料金を交渉すべきタイミングはいつでしょうか。

- 部屋への宿泊数が100回を超える^
- ある都市への出張パターンが一貫している
- 出張者が予約と滞在に満足している

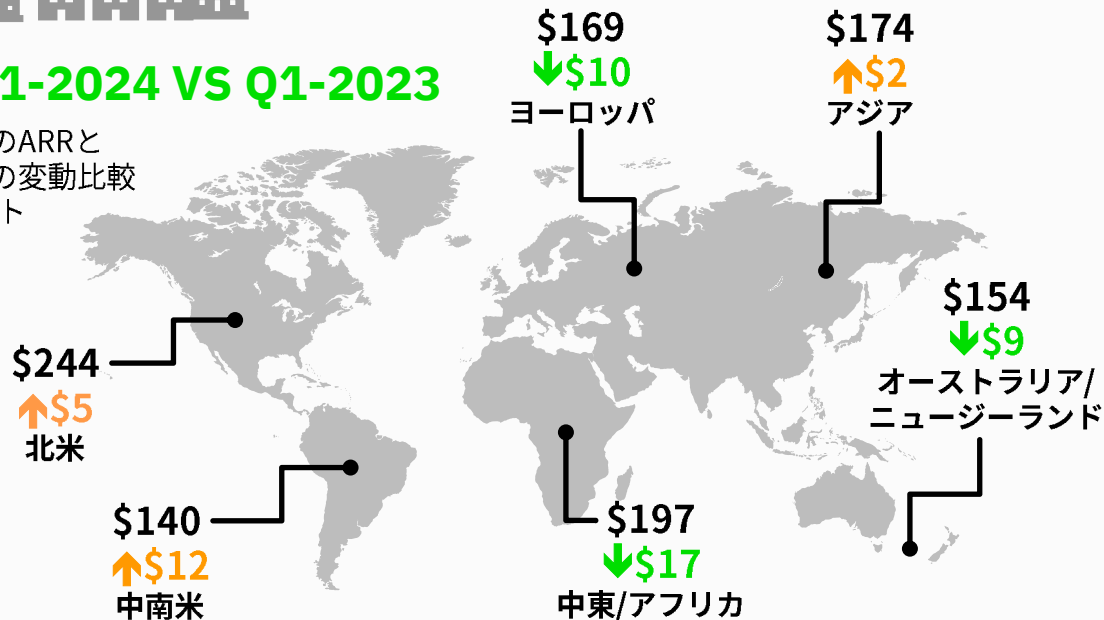
2024年のホテルの契約料金とBAR^料金を比較すると、現在企業の交渉料金は平均-35.1%で、BAR料金より安くなっています。この結果はFCMトラベル、コーポレート・トラベラー、およびその他の世界の第三者TMCを通じて予約したFCMコンサルタントの顧客に基づいています。

2

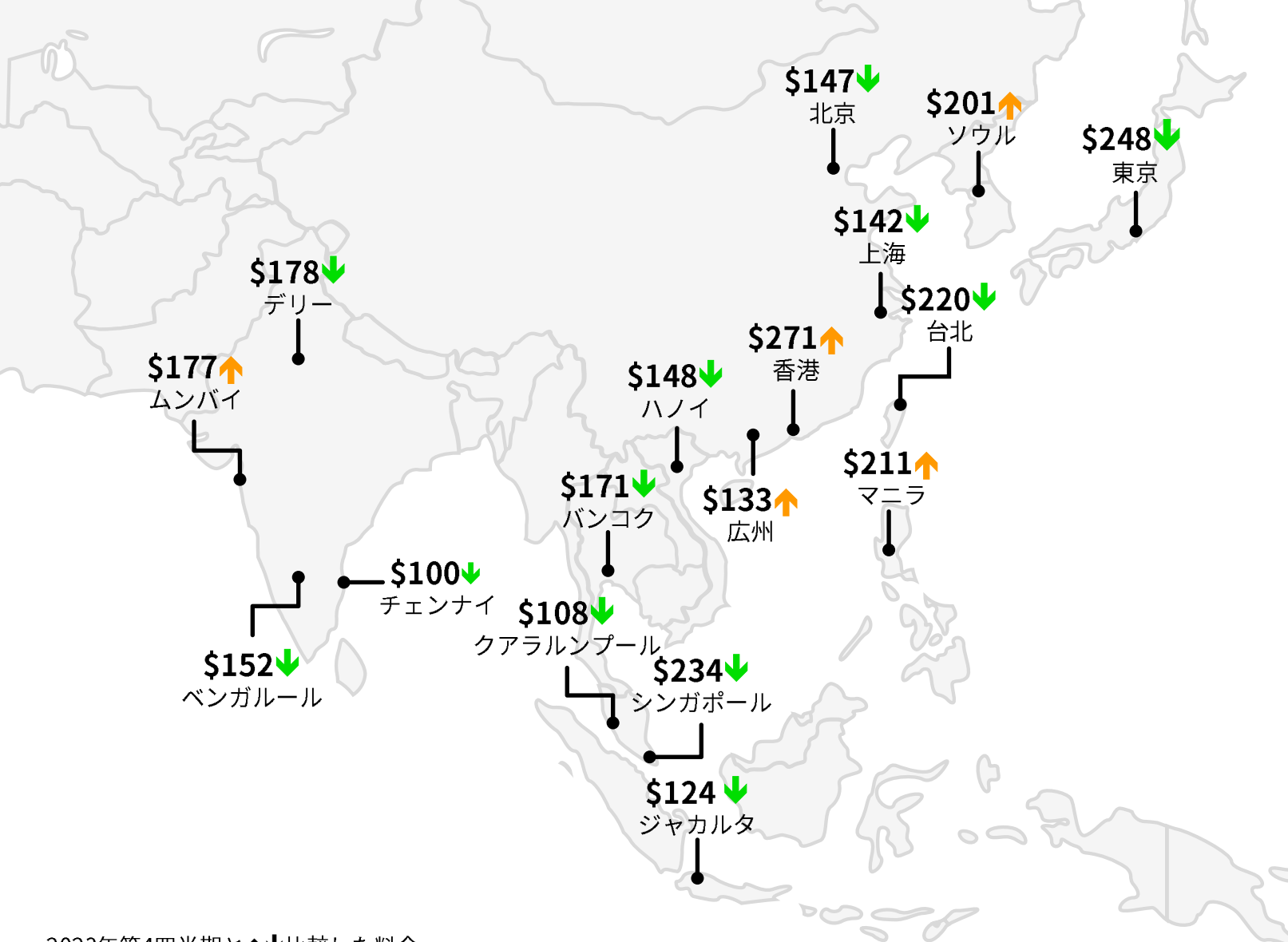


### ARR※ Q1-2024 VS Q1-2023

2024年Q1のARRと  
2023年Q1の変動比較  
↓↑レポート



^ BAR = 一般提供されているベストアベイラブルレート。1泊あたりの料金は変動します。通常はWi-Fiを利用でき、柔軟な変更やキャンセルなどが可能です。  
※ARR=平均客室料金



2023年第4四半期と↑↓比較した料金

支払われた出張の平均料金の割合の変化

**2024年第1四半期vs**

2023年第4四半期 ↓ 11%

2023年第1四半期 ↑ 1%



米ドル

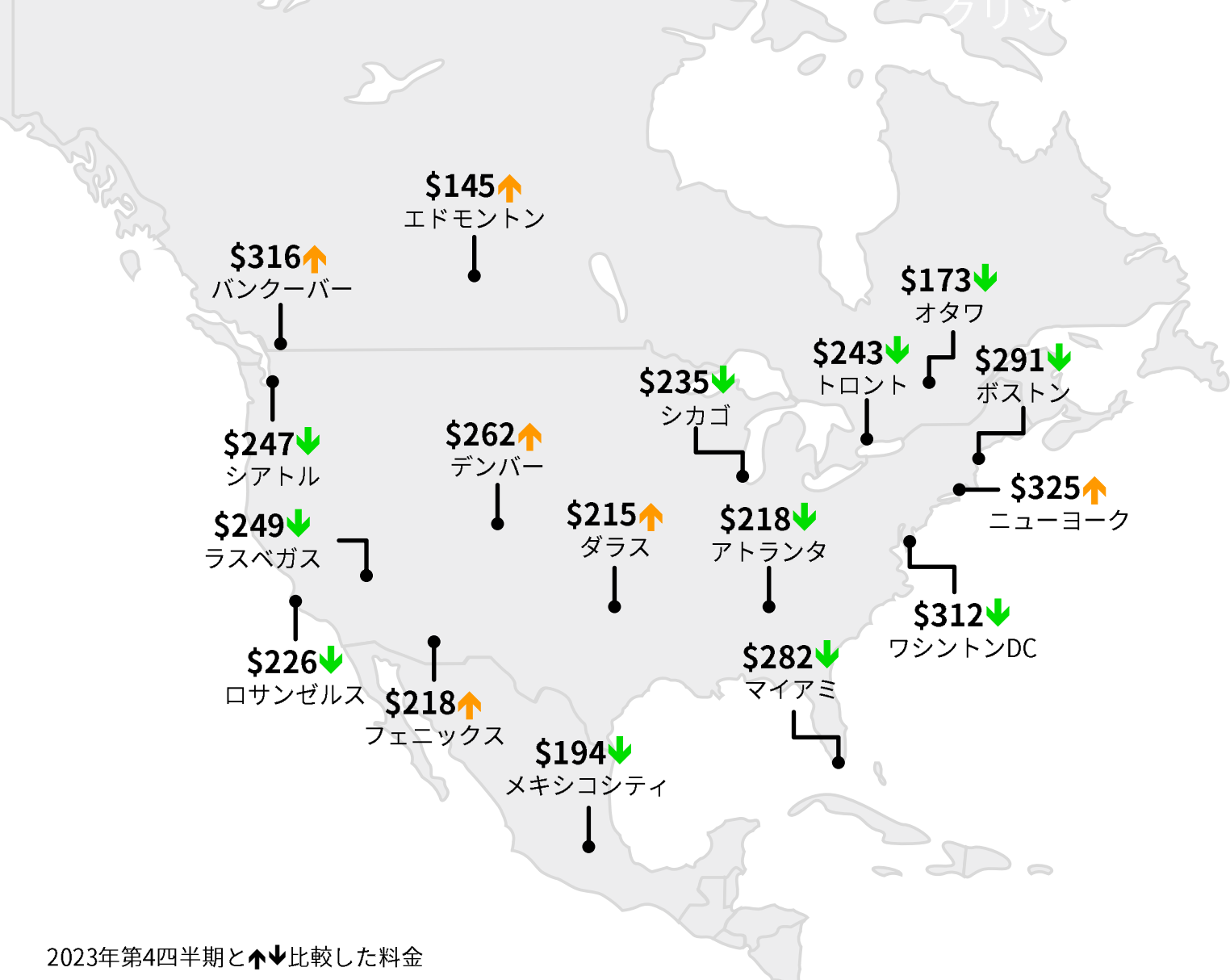
# アジア

## 宿泊施設 2024年第1四半期

2024年第1四半期のARRは、2023年第4四半期の急上昇ののち、↓23ドル下がりました。他の地域と一貫して、2024年第1四半期のARRは2023年第1四半期から↑2ドル上がりました。

2023年第4四半期と比較した料金

- シンガポール ↓ 21%
- 上海 ↓ 19%
- ジャカルタ ↓ 20%
- チェンナイ ↓ 23%
- マニラ ↑ 21%
- クアラルンプール ↓ 25%



2023年第4四半期と↑↓比較した料金

支払われた出張の平均料金の割合の変化  
**2024年第1四半期vs**

2023年第4四半期 ↓ 3%  
 2023年第1四半期 ↑ 2%



# 北米

## 宿泊施設 2024年第1四半期

2024年第1四半期のARRは、2023年第1四半期と比較して↑5ドル（↑2%）上昇しました。フェニックスとデンバーでは同時期に2桁の伸びを見せました。

### 2024年第4四半期と比較した料金

- シカゴ ↓ 3%
- ロサンゼルス ↓ 28%
- ニューヨーク ↑ 3%
- メキシコシティ ↓ 21%
- バンクーバー ↑ 41%

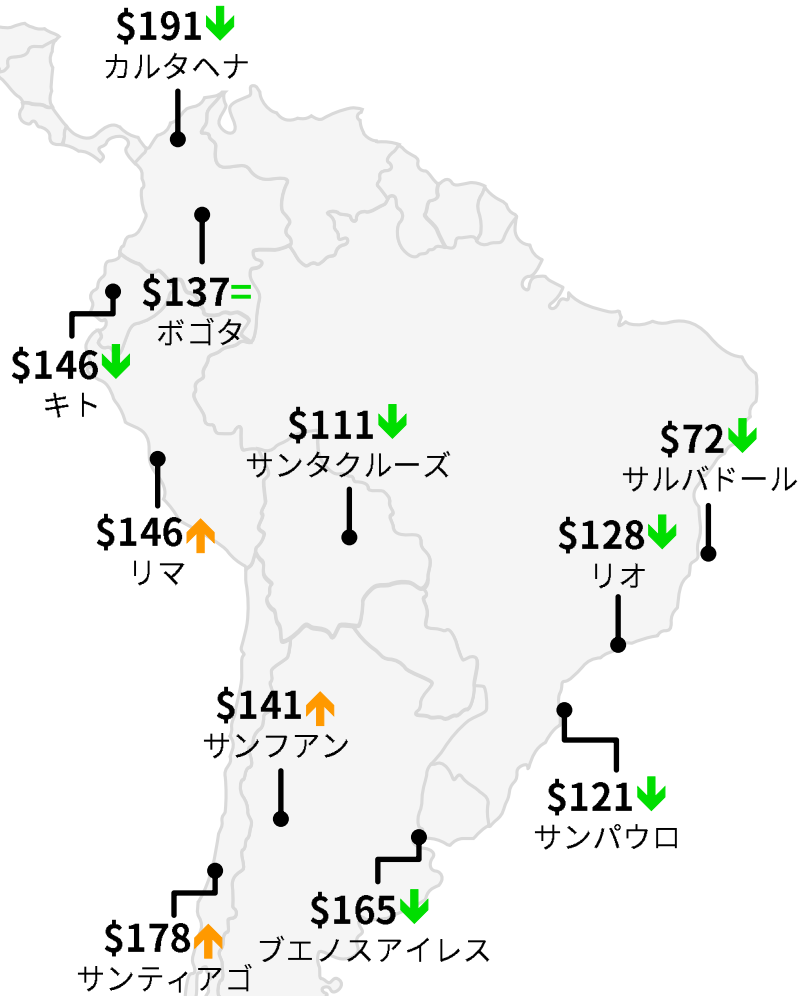
# 中南米

## 宿泊施設 2024年第1四半期

地域全体のARRは2023年第1四半期と比較して平均↑12ドル上昇しました。

### 2023年第4四半期と比較した料金

- ・ ブエノスアイレス ↓ 12%
- ・ リマ ↑ 9%
- ・ リオ ↓ 46%
- ・ サンティアゴ ↑ 17%
- ・ サンパウロ ↓ 19%



2023年第4四半期と↑↓比較した料金

支払われた出張の平均料金の割合の変化  
**2024年第1四半期 vs 2023年第1四半期**

2023年第4四半期 ↓ 16%  
2023年第1四半期 ↑ 9%



米ドル

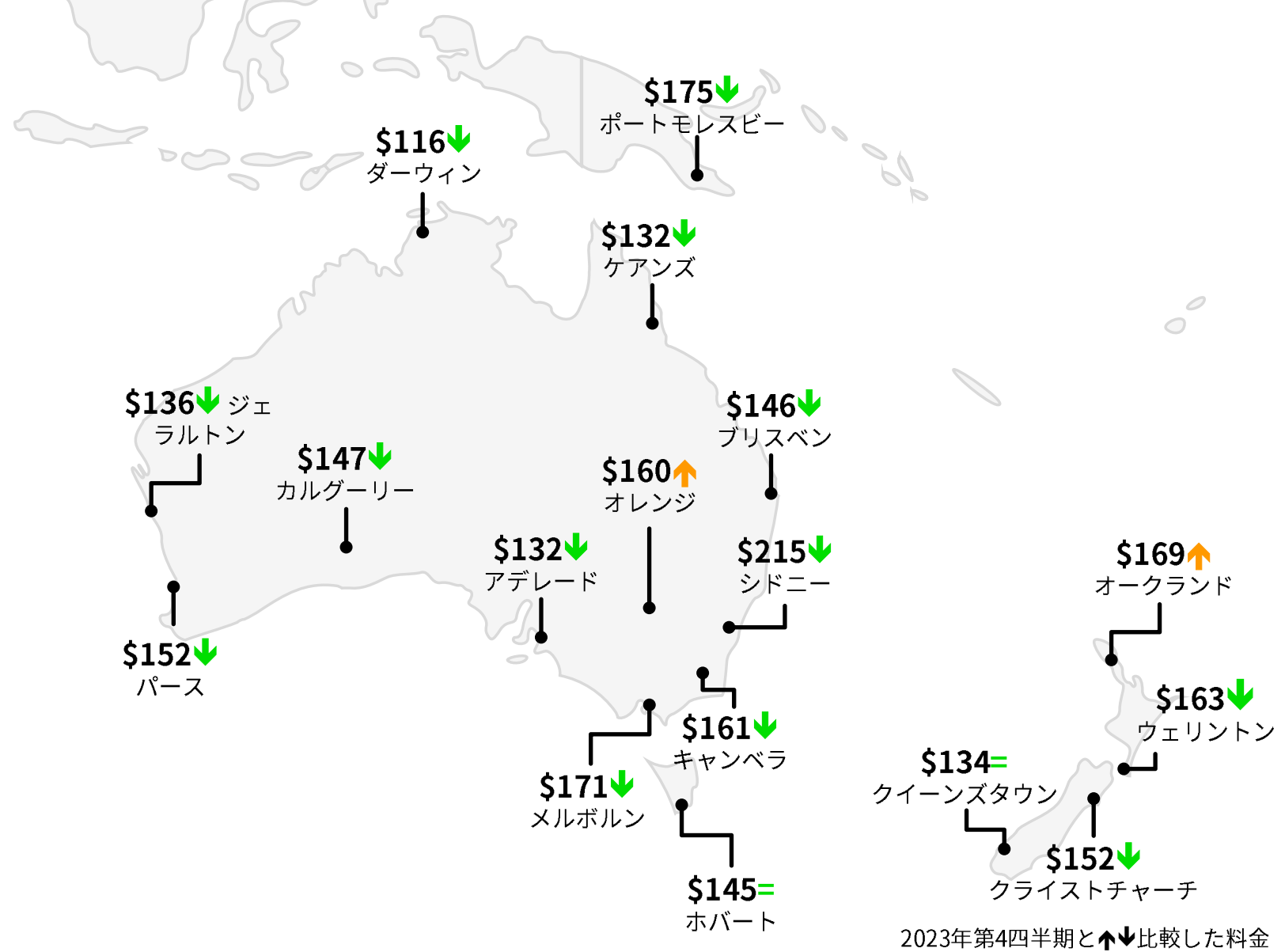
# オーストラリア、 ニュージーランド

## 宿泊施設 2024年第1四半期

アジア地域と類似して、2023年第4四半期の後、2024年第1四半期にはオーストラリア/ニュージーランドのARRは↓20ドル下がりました。

### 2023年第4四半期と比較した料金

- アデレード ↓ 23%
- オークランド ↑ 4%
- メルボルン ↓ 15%
- シドニー ↓ 16%
- ウェリントン ↓ 5%



2023年第4四半期と↑↓比較した料金



支払われた出張の平均料金の割合の変化  
**2024年第1四半期 vs**  
 2023年第4四半期 ↓ 12%  
 2023年第1四半期 ↓ 5%

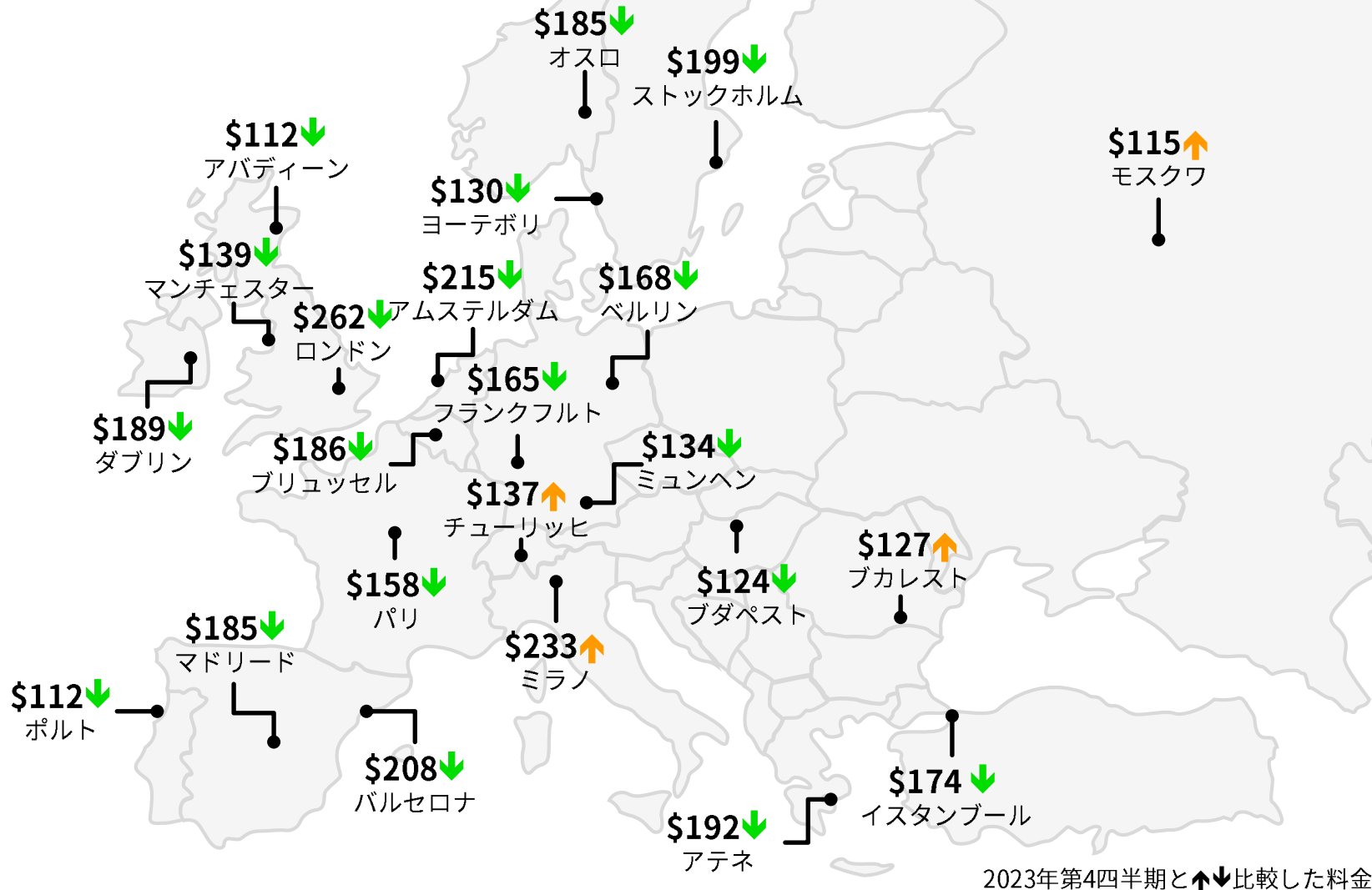
# ヨーロッパ

## 宿泊施設 2024年第1四半期

ヨーロッパ全体の2024年第1四半期のARRは、2023年第4四半期と比較して↓26ドル下がりました。

### 2023年第4四半期と比較した料金

- ベルリン ↓ 18%
- ダブリン ↓ 15%
- フランクフルト ↓ 13%
- ロンドン ↓ 11%
- マドリード ↓ 9%



2023年第4四半期と↑↓比較した料金



米ドル

支払われた出張の平均料金の割合の変化

2024年第1四半期vs

2023年第4四半期 ↓ 13%

2023年第1四半期 ↓ 6%



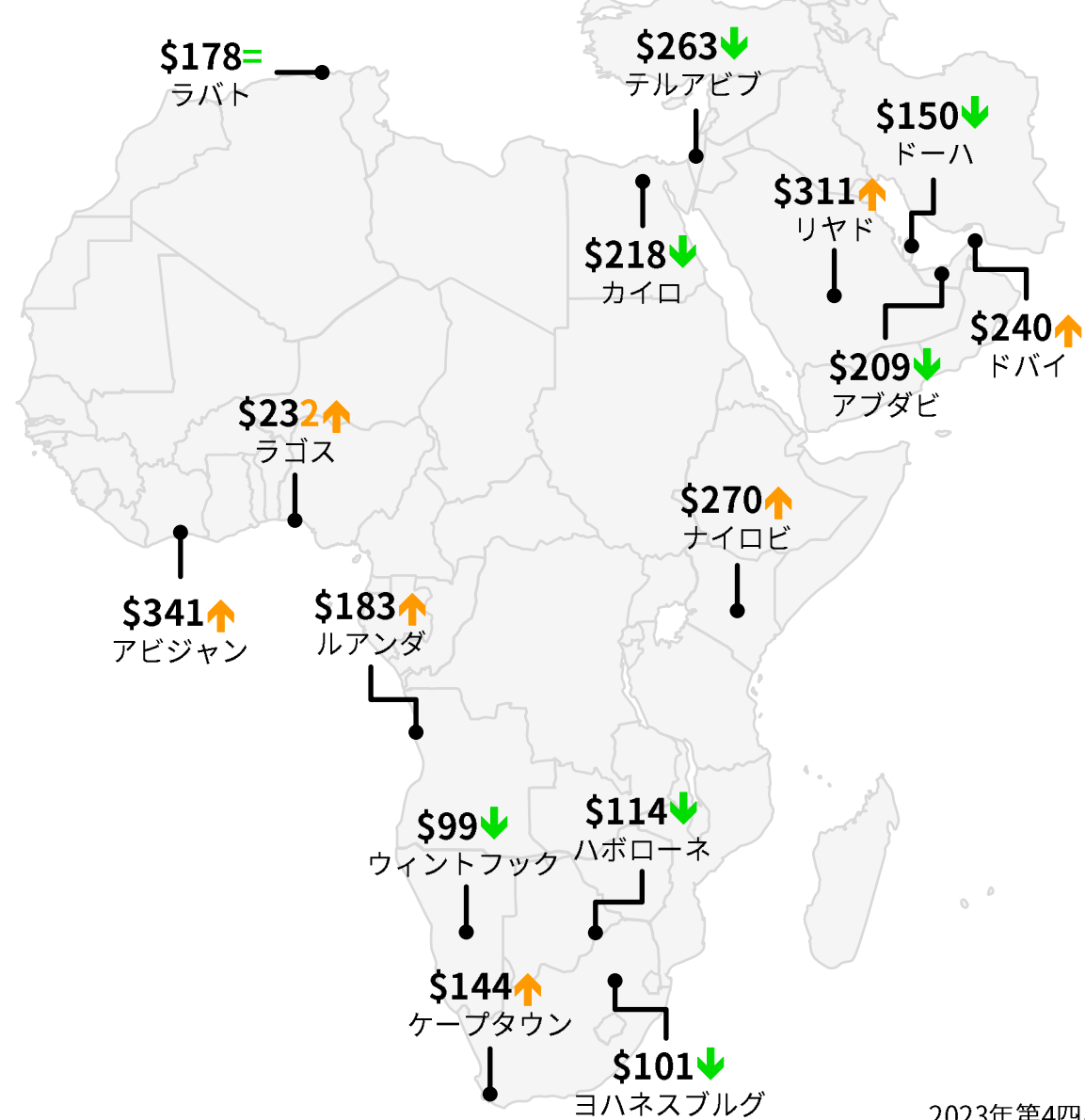
# 中東、アフリカ

## 宿泊施設 2024年第1四半期

この地域の第1四半期のARRは、  
2023年第1四半期と比較して  
↑1ドル上昇とほぼ横ばいでした。

### 2023年第4四半期と比較した料金

- アブダビ ↓ 24%
- カイロ ↓ 6%
- ケープタウン ↑ 4%
- ドバイ ↑ 10%
- ヨハネスブルグ ↓ 5%
- リヤド ↑ 18%



2023年第4四半期と↑↓比較した料金



米ドル

支払われた出張の平均料金の割合の変化

2024年第1四半期vs

2023年第4四半期 ↓ 2%

2023年第1四半期 ↑ 1%

# 移動手段

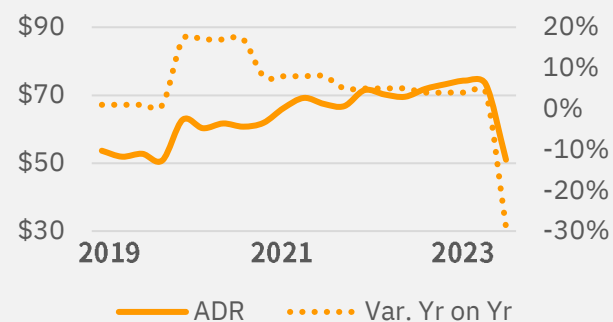
## 2024年第1四半期の主なポイント

1



### 2024年第1四半期のレンタカー

2024年第1四半期の世界のADR<sup>^</sup>は**51ドル**で、**2023年のADRから↓22ドル**下落しています。料金が下がり、2024年第1四半期の需要が刺激されていることが観測されています。



2



### タクシーの利用

タクシーや配車サービスのコストは出張予算でしばしば見過ごされますが、過去2年間で運賃は上昇しています。2022年にニューヨークのタクシー運賃は**↑23%**引き上げられ、2024年にはロンドンタクシー（ブラックキャブ）の運賃は**↑8.9%**、米配車サービスは2019~2022年から**↑41%**上昇しました。

FCMは企業に対し、費用を統合することと、交通機関の使用や選択肢に関するガイドラインを設定することを推奨しています。出張者は費用、利便性、排出量を基に最適な地域を選択すべきです。

3



### レンタカーサービスの今後

近年で製品やサービスを変更していない出張サプライヤーはほとんどありません。レンタカー企業は総車両の排出量を削減できる**ハイブリッド車とEV車**の急速導入を通じて、注目に値する画期的な変革を実施してきました。

レンタカーサービスで次に起こること:

- 車両刷新の継続
- 新たなライドシェアリングの採用
- サブスクリプションベースでの利用
- テクノロジーによる顧客摩擦の削減

<sup>^</sup> ADR = 予約された1日あたりの平均レート

# 当社のチーム

**Jo Lloyd**

FCMコンサルティング、  
グローバルリーダー



**Felicity Burke**

アジア太平洋地域  
コンサルティング責任者



**Ashley Gutermuth**

アメリカ大陸  
コンサルティング責任者



**Juan Antonio Iglesias**

EMEAコンサルティング責任者



**Florian Mueller**

グローバル エアプラクティス  
・リード



**Rachel Newns**

グローバル ホテル  
プラクティス・リード



**Eve Smith**

グローバル変更管理および  
コミュニケーション・リード



**Glenn Thorsen**

グローバル  
サステナビリティ・リード



# 世界経済

**購買担当者景気指数（PMI）**：製造業およびサービス業における経済動向の一般的な方向性を示す指標。PMIは、19業界のサプライチェーン管理者を対象とした月次調査に基づいており、上流と下流の両方の活動を対象としています。複合PMI™は、S&P Globalが作成した、特定の地域または経済における製造業およびサービス部門のPMIの加重平均です。ヘッドラインのPMIは0から100までの数値で、50より多いPMIは前月と比較して拡大していることを意味します。PMIが50未満の場合は景気が縮小しており、50の場合は変化がないことを示します。

**失業率**：労働力人口に占める失業者または無職者の割合です。労働力人口には、雇用されている人と失業している人が含まれます。失業率は、景気が悪く雇用が不足しているときに上昇し、遅行指標です。失業率が高いと、家計の可処分所得が減少し、経済生産が低下します。

**インフレ**：価格が上昇する割合を示す尺度です。通常、商品やサービスが増加する割合です。通貨単位の実質的な購入額が以前の期間よりも少ないことを意味すると解釈されます。多くの場合、増加率として報告されます。インフレは、価格が下落し購買力が増加したときに発生するデフレと対比できます。

# より詳しい情報

## FCMコンサルティング

本レポートは、私たちのFCMコンサルティングアナリティクスチームによって作成されました。本レポート内のあらゆる資料の著作権および所有権は特に明記のない限り、FCMに帰属します。予測を含め、本レポートの情報は、公開日時点において信頼できると考えられる資料および情報源から入手したものです。

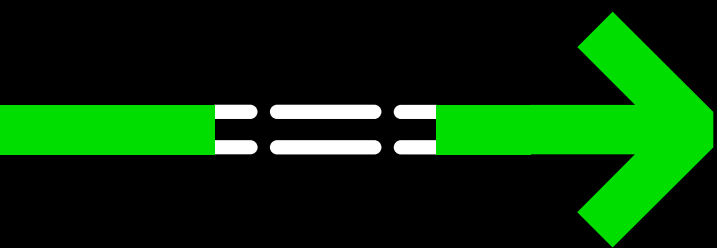
読者は、本出版物の情報の関連性、正確性、完全性、最新性の評価において一切の責任を負うものとし、本レポートは、情報提供のみを目的として発表されています。

資料に関するすべての権利は留保されており、FCMの事前の書面による明示的な承諾なしに、その方法を問わず、資料またはその内容、あるいはその複製物の改編、第三者への提供、複製、配布を認めません。本レポートの無断転載および転用を固く禁じます。FCMは本レポートの情報を使用または信頼する人物により発生または増大した損失、損害、費用、経費について一切の責任を負いません。

FCMコンサルティングに関する詳しい情報は次のリンクからご覧ください。

[www.fcmtravel.com/en/what-we-do/consulting](http://www.fcmtravel.com/en/what-we-do/consulting)

可能性を最大限に高めよう



FCM

CONSULTING